

神奈川県青少年科学体験活動 推進協議会 NEWS 第155号

平成31年3月15日発行
事務局：県立青少年センター
科学部 科学支援課
電話：046-222-6370

総会で共有、子ども達の感動・笑顔！

会員の皆様にはこの1年間、「子ども科学探検隊」や「中高生サイエンスキャリアプログラム」、各種のイベントへの出展等で大変お世話になりました。今年度の当協議会の総会が、3月8日(金)横浜紅葉ヶ丘の青少年センターで開催され、イベント・講座に参加した子ども達が“科学”に触れた時の感動や笑顔を振り返りながら、科学分野に興味・関心を抱く子ども達の育成の裾野が広がるよう会員間で情報共有をしました。



横浜緋桜（横浜スタジアム前、3月13日事務局撮影）→

理事会 3/1(金)



↑理事会の様子

総会の1週間前に理事会が開催され、理事10名(各グループからの代表)により、総会に向けて連絡事項・協議事項の確認が行われました。また、各理事が所属する会員の、当協議会に関する今年度の活動状況を振り返りました。

事務局長(科学部長)からは、ミニ講話「疑問を持ち続けること」を披露しました。この講話は、「中高生サイエンスキャリアプログラム」の開講式で事務局から、中高生に話したものです。

事務局長のミニ講話のスライドから →



アインシュタイン語録

「失敗したことのない人間というのは、挑戦をしたことのない人間です。」

「観察したり、理解したりする喜びは、自然からの最大の贈りものだ。」

「大切なのは疑問を持ち続けること。」



総会 3/8(金)

今回の総会は、事務局を含め40名の参加でした。開会前の時間を使って、江戸時代まで遡った「紅葉ヶ丘周辺と青少年センター(科学部)の歴史」(事務局作成)を上映しました。

総会は、会長(青少年センター館長)の挨拶に続き、理事、会員が自己紹介し、議事に移りました。内容は次のとおりです。



↑総会の様子(事務局からの報告)

1 協議会構成員確認

- (1) 会員：現在95会員
- (2) 理事：任期2年(2018年度～2019年度)

2 報告事項

- (1) 事業報告 (事務局作成のスライドムービーによる紹介)
- (2) 2018年度 外部助成金の決算・監査報告

3 協議事項

- (1) 2019年度 事業計画(案)：「子ども科学探検隊」「中高生サイエンスキャリアプログラム」など
- (2) 2019年度 外部助成金の活用(案)：「東京応化科学技術振興財団」に申請
- (3) 協議会規程の改定(案)：重複事項の削除



会長(青少年センター館長)挨拶 ↑



総会の報告事項の中で事務局長からミニ講話「努力と成功」を披露しました。これは、事務局主催の「小学生科学研究クラブ」の修了式で、事務局長から小学生たちに話した内容です。

← 総会の開会までの上映

〇〇〇〇のことは

天才とは、
1%のひらめきと
99%の努力である。

エジソン



(1847～1931)



だれ?

科学講演会

講師：植木暢彦氏



協議会の総会后、部屋を変えて科学講演会が開催されました。今年は、鈴鹿かまぼこ本店の魚肉たんぱく研究所の植木暢彦所長を講師にお招きして「かまぼこ屋のサイエンス」という演題で講演していただきました。



かまぼこ作りで大切なものは「魚・塩・水・技」ですが、日本は魚の宝庫で、日本近海の海洋面積は世界のたった0.9%なのに、魚の種類は全世界の12%にも及び、かまぼこ作りに適している良質の魚が獲れるそうです。原料の魚のことから、かまぼこができるまでの工程やかまぼこの弾力のメカニズムなど、職人技を科学の側面から興味深くお話していただきました。
(38名参加)



教員養成課程(先生の卵たち) 理科実験講座



2月27日(水)、28日(木)の両日、協議会会員の鎌倉女子大学において、教育学部(教員養成課程)や児童学部で学んでいる学生(将来の先生)を対象とした「小学校理科授業実践講座」が

開かれました。講師は青少年センター科学部が務めました。初日(10名参加)は生物分野の「チリメンモンスターをさがせ」「植物カード」の実習、2日目(8名参加)は物理分野の「ふうふうコマ」「マジックウォール」などの科学工作に、学生たちは取り組みました。



イワシの稚魚がメインのチリメンの中に、別の種類の稚魚やタコ、イカ、エビ、カニの幼生が混じっています。ツツノオトシゴの赤ちゃんも混じっていました。これらがチリメンモンスター(ニチリモン)です。これをピンセットでかき分けながら、できるだけ多くのチリモンを探し出し、最後は標本にしました。いずれのテーブルも10種類以上のチリモンが見つかりました。



「ふうふうコマ」、「磁石の迷宮」、「3Dバランス人形」、「ゴムCAR」の4種類の科学工作を紹介しました。いずれも、幼稚園・保育園・小学校でそれぞれの年齢に応じて楽しめる工作です。小学校低学年や、未就学児にも簡単に制作できることから、学生たちに好評でした。遊び方にも、学生たちが工夫したアイデアを出し合っており盛り上がりしました。



青少年センター科学部オリジナルの「植物カード」を使った実習では、各テーブルごとにカードを使った遊び方を考えてもらいました。将来、園児や児童に接することを目指す「先生の卵たち」だけあって、「子どもならどう考えるか?」「子どもへはどう教えればよいか?」などと、熱心にメモを取りながら子どもの視点で講座に取り組んでいる姿が印象的でした。

事務局から



↑ハワイ島の溶岩とサボテンの花(事務局撮影)

協議会の総会、講演会に出席いただいた会員の皆様、お疲れさまでした。その後の親睦会にも20名の方の参加があり、1年間の活動の振り返りや、今後の連携事業などの情報交換ができました。次年度もよろしく願いいたします。次回発行の協議会ニュースと併せて「変更届出用紙」をメール配付する予定ですので、新年度の人事異動などに伴った代表者や担当者等の変更は、事務局までご連絡ください(変更がない場合もご返信ください)。今年度も40号もの協議会ニュースをご笑覧いただきありがとうございました。(事務局:村上、高相、山田、宮城)



↑パリ、セーヌ川沿いの白鳥(事務局撮影)

←←← 協議会もグローバル感をだしてみました。(事務局) →→→